


糖尿病と歯周病

— その密接な関係 —



糖尿病の方はお口の定期的な
健診・治療をお忘れなく

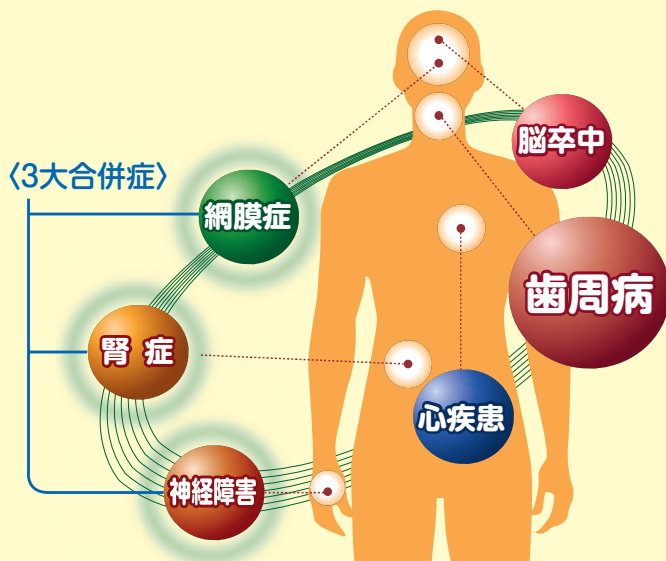
最近、糖尿病と歯周病の関係が明らかになっています。糖尿病の方はそうでない方に比べ中等度以上の歯周病になる頻度が2~3倍高く、進行が速くなります。また、歯周病の状態が悪いと血糖コントロールに悪影響を与えます。

一般社団法人 富山県歯科医師会  富山県

歯周病は糖尿病の6番目の合併症

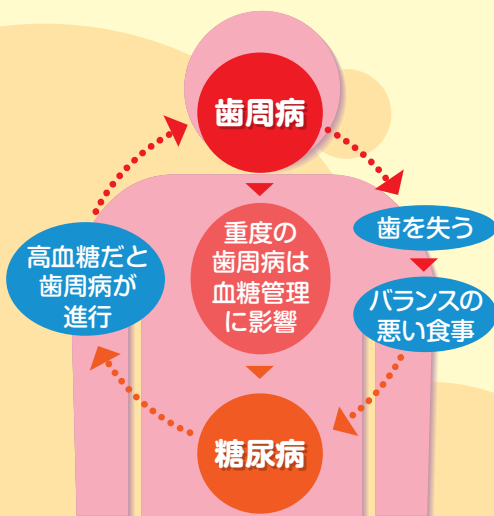
糖尿病で怖いのは種々の合併症です。とくに3大合併症と呼ばれる「糖尿病性網膜症」「糖尿病性神経障害」「糖尿病性腎症」は高血糖が長く続くことで起こる糖尿病特有の合併症です。

そして「大血管障害の心疾患」「脳卒中」が代表的な合併症です。実はその次にあたる合併症が「歯周病」なのです。



歯周病の治療・管理により歯周組織の炎症が改善されるとインスリンが働きやすい状態になって血糖コントロールがしやすくなります。

いつまでもおいしく食事を楽しむためにも、血糖コントロールのためにもお口の健康は大切です。

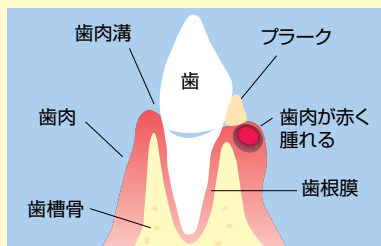


歯周病とは

歯周病は、細菌感染による炎症によって歯を支えている歯周組織（歯の周りの組織）が破壊される病気です。

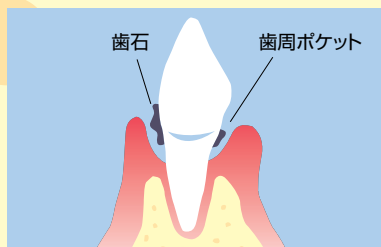
歯の周りにプラーク（歯垢）がたまると、プラーク中の細菌や代謝産物が歯肉を攻撃します。歯肉は、身体を守る細胞（白血球やマクロファージ等）を動員し、炎症・免疫反応で防御します。このときに様々な炎症物質（サイトカイン等）が分泌され、歯肉に炎症が起きたのが歯肉炎です。さらに、炎症が進むと、自らの組織を破壊し、歯周ポケット（歯と歯肉の深い隙間）を形成します。そのポケット内に歯周病原細菌が棲みつき、炎症がますます進んだ結果、歯槽骨（歯を支える骨）が吸収し、歯周炎に進みます。最後には、歯槽骨が完全に吸収し、歯が抜けてしまいます。

歯肉炎



- 歯肉の色が赤みを帯びる。
- 歯肉が腫れる。歯がむず痒い。
- 時々歯肉から血が出る。
- 歯槽骨は吸収していない。
- 軽い刺激では出血しない

進行した歯周炎



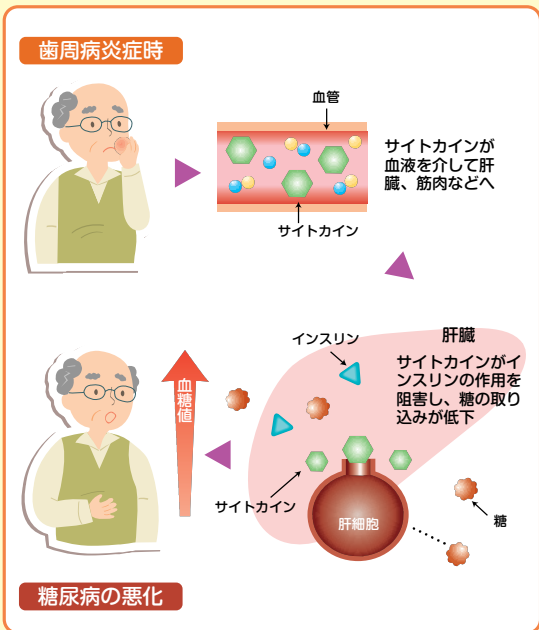
- 歯と歯肉が離れ、深い歯周ポケットができる。
- 歯周ポケットから膿が出て、口臭がひどくなる。
- 歯肉がブヨブヨになり退縮し、歯が長く見える。
- 歯槽骨が吸収している。

歯周病で糖尿病が悪化 → 歯周病治療で糖尿病が軽減

糖尿病の患者さんで歯周病に罹っている方が治療を行うと、血糖値が改善したという報告が多数あります。言い換えれば、歯周病が糖尿病を悪化させる要因のひとつであるということです。

そのメカニズムは炎症時に歯周組織で増加した特定のサイトカイン(TNF- α 他)が血行性に肝臓、筋肉、脂肪組織に運ばれ、インスリンの作用を阻害し、血糖コントロールを悪化させると考えられています。

歯周病治療により炎症が低減し、歯周病と糖尿病の悪い循環を改善するのに役立ちます。



歯周病治療

インスリンの効果が発揮されて血糖値が改善

糖尿病が軽減

初診時(治療前)

歯の表面や歯と歯肉(歯ぐき)の間に歯石が付着し、歯肉が炎症をおこし、赤く腫れています。歯みがきをすると出血しやすい状態です。

右側

正面

左側

身長173cm
体重92kg
HbA1c 12.0%



14か月後

歯肉の炎症がおさまり、歯肉の色もうすいピンクになり、歯みがきしても出血しない状態になりました。

右側

正面

左側

身長173cm
体重70kg
HbA1c 5.8%

